



コード（分野）	15901（4. キャリア教育）
メニュー名	知ってみよう！自衛隊の仕事
校園名(学年)	栗東市立治田小学校 6年生 4 学級 118 名
講師・支援者等	自衛隊滋賀地方協力本部(草津地域事務所)
学 習 名	様々な職業観を学ぶ
教 科 等	総合的な学習の時間
実 施 日	令和7年 10 月 15 日（水） 9:35～10:20

《授業の流れ》

テーマ「未来への道」～その道のプロに聞こう～
[体育館にてプレゼンテーション方式]

1 自衛隊の身分と仕事について

- ・特別職国家公務員、陸上・海上・航空の3つの職域からなる自己完結型組織
- ・3大ミッション：①国防 ②災害派遣 ③国際平和協力・貢献



2 自衛隊の実情

- ・陸上（16 職種）海上（50 職種）航空（28 職種）
- ・戦車（約 13 億円）護衛艦（約 1380 億円）潜水艦（約 520 億円）
F35 航空機（約 120 億円）
- ・領域侵入を防ぐスクランブル発進（年間 700 回越え）
- ・災害派遣（R6 年 1 月 1 日 能登地震）…延べ 39 万 7 千人：マンパワー
- ・楽団、オリンピック出場選手（滋賀県出身の金メダル選手等）、ブルーインパルス



3 職業を選んだ理由、よかったこと、つらかったこと

- ・人に喜んでもらえる仕事であること、困っている人を助けることができる仕事
- ・「ありがとう」と言われることでしてよかったと思える
- ・災害があると辛い（悲しい）…災害がないとありがたい



4 能登地震派遣の様子（動画）

- ・陸から（陸上自衛隊）海から（海上自衛隊）空から（航空自衛隊）の連携支援
- ・道路が寸断されていた→シー・ベーシング（海上基地設営）

5 質疑応答

- ・大切にしていること…安全管理が1番、二次災害を起こさない、ファストフォース
- ・駐屯所、基地の数…陸 160、海 45 空 70
- ・男性と女性の比…女性 2.5 万人/25 万人：10%以上

<感想等>

児 童

- ・私は将来薬剤師になりたいです。どんなことをすればなれるのかが、いまいちわからないので、今回の話を聴いて、免許は必要だけど、「なりたい」という思いがあるかからこそ夢がかなうと思いました。また、その仕事だからこそできることがあると思うので、私も将来人のためになる仕事をしていきたいと思いました。二人とも「ありがとう」がうれしいと言っていたので、私は仕事を一生懸命がんばったからこそ、なにげない「ありがとう」がいつもよりうれしく感じるんだなと思い、その言葉を目指してがんばっていききたいと思います。
- ・自衛隊のお仕事は男性だけかな？とか、戦うだけかな？と思っていたけど、今は女性もされていてしかも音楽隊とかもあって、少し興味を持ちました。これからも日本を守ってほしいです。私も将来は人を守ったり、人のためになったりする仕事につきたいです。今の私の夢は手話関係のお仕事で、困っている人を助ける仕事になりたいので、みなさんに応援してほしいです。
- ・私は自衛隊がとても大変な仕事だと思いました。地震の時とかに危険な所を歩いたり、みんなに食べ物などを届けたりしてとてもすごいと思ったし大変だと思いました。私は自衛隊にはほとんど休みがないと思っていたけど、休みがあることを知って普通の仕事と一緒にだと思いました。
- ・「災害の救助のお金はどこから出るんですか？」という質問に、「お金は国が全て出しています。人命救助にお金は不可欠ですからね。」と言ってくださいました。…陸・海・航空すべての自衛隊のことをくわしく教えてくれたことです。「パワー系だけではないですよ。」や、「安全第一でがんばっています。」など、詳しくわかりやすく教えてくださいました。僕は警察官を目指しています。自衛隊のお話を聴いて、ますます目指そうと思いました。



学 校(担任の先生等)

- ・子どもたちは自分の夢の実現に向けて、自衛隊の方の思いを受け止め、自分の考えを深める有意義な機会となった。特に人から「ありがとう」と言われる仕事ということが心に響いた児童が多く、自分も人の役に立つ仕事につきたいと考えているようであった。
- ・これまでにも社会科で自衛隊については学んできたが、今回直接お話を聴くことができ、より自衛隊の職務に対する理解が深まったと感じる。特に災害派遣や人道支援については、自衛隊についての見方が広がったと言える。
- ・以上のことから、この授業で目的としているキャリア教育としての職業感の醸成については、一定成果があったと考えている。



取材者

- ・陸上自衛官と海上自衛官お二人が話を交互にされた。子どもたちは、熱心に聞き入りメモを取っていた。これまでいくつかの職種のプロから話を聞いてきたことがよく感じられた。
- ・質疑応答の時間をたくさんとられたが、時間が足りないくらい、子どもたちは積極的に質問をしていた。終了後も自衛官の方や先生方に聞きに回るなど、とても意欲的な姿勢であった。
- ・自衛隊の仕事も「人に喜んでもらえる」ことが、仕事のモチベーションになっていることを子どもたちは学んだ。しかし、自衛隊にとって、支援して「ありがとう」と言われるのは大変うれしいが、それよりも災害が起こらず、人々が辛い思いをしなくて済むことが一番であるという話が印象に残った。

